

令和元年度

第1回 指定管理者選定評価委員会

令和元年7月26日

千葉市教育委員会

令和元年度第1回千葉市教育委員会指定管理者選定評価委員会議事録

1 日時：

令和元年7月26日（金） 18時00分～20時40分

2 場所：

千葉市教育委員会事務局 教育委員会室
（千葉市中央区問屋町1-35 千葉ポートサイドタワー12階）

3 出席者：

（1）委員

近藤葉子委員（会長）、岡村健司委員（副会長）、中野智輔委員、宮野モモ子委員

（2）事務局

ア 教育総務部

布施部長

イ 生涯学習部

潮見部長

ウ 総務課 渡邊課長補佐、金井総務班主査、今井主査補、松元主任主事

生涯学習振興課

中島課長、八斗統括管理主事、土肥課長補佐、柴崎主査、上原主任主事、久保木主任主事、大西主任主事

4 議題：

（1）会長及び副会長の選任について

（2）指定管理者の施設管理に係る年度評価について

ア 千葉市生涯学習センターについて

イ 千葉市科学館について

ウ 千葉市公民館について

5 議事の概要：

（1）会長及び副会長の選任について

千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例（平成22年千葉市条例第7号）第9条第2項の規定により、委員の互選により、近藤委員を会長に、岡村委員を副会長に、それぞれ選任した。

（2）指定管理者の施設管理に係る年度評価について

千葉市生涯学習センター、千葉市科学館及び千葉市公民館の指定管理者の施設管理に係る年度評価について、それぞれ事務局から説明があり、審議。後日、審議の内容を基に事務局が答申案をまとめ、各委員の意見を聴取した上で、会長の承認を経て本委員会の答申とすることとした。

6 会議経過：

○金井総務課主査 傍聴人の方にお願ひいたします。入室の際にお配りしております傍聴の注意事項をお守りいただき傍聴されますようお願いいたします。なお、お守りいただけない場合は退席を願う場合もございますので、よろしくお願ひいたします。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、お集りいただき、ありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまより令和元年度第1回千葉市教育委員会指定管理者選定評価委員会を開会いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます教育委員会総務課総務班主査の金井と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、本日、中原委員より欠席する旨のご連絡がありましたので、ご報告いたします。

本日は、委員の半数以上のご出席がございますので、会議は成立しております。

また、千葉市情報公開条例第25条の規定に基づき会議は公開となりますので、あわせてご報告させていただきます。

それでは、開会に当たりまして教育総務部長の布施からご挨拶を申し上げます。

○布施教育総務部長 皆さん、こんばんは。教育総務部の布施でございます。

委員の皆様方には、本日は大変お忙しい中、千葉市教育委員会指定管理者選定評価委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

千葉市では、指定管理者の選定過程の一層の公平性や透明性を図るため、平成22年3月に千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例を定め、財務あるいは法務の専門の方、学識経験者の皆様によって構成される当委員会を設置したところであります。

委員の皆様方におかれましては、新たな任期の始まりとなりますが、これまで同様、有用なご意見、ご提案を頂戴いたしますようよろしくお願ひいたします。

本日は、生涯学習センター、科学館、公民館について、指定管理者が行った施設管理に関する年度評価をお願いするものでございます。委員の皆様には、大変お手数でございますが、今年度も豊富なご経験と高い見識によりご審議くださいますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

○金井総務課主査 続きまして、委員紹介に入らせていただきます。

本日は第1回目の会議でございますので、ご就任いただきました委員の皆様のご紹介をさせていただきます。

それでは、皆様、お手元の委員名簿をご覧ください。名簿の順にご紹介させていただきます。

最初に、公認会計士でいらっしゃいます岡村健司委員でございます。

○岡村委員 よろしくお願ひします。

○金井総務課主査 次に、元社会教育委員の近藤葉子委員でございます。

○近藤委員 よろしくお願ひいたします。

- 金井総務課主査 次に、弁護士でいらっしゃいます中野智輔委員でございます。
- 中野委員 中野と申します。よろしくお願いいたします。
- 金井総務課主査 次に、千葉大学法政経学部教授でいらっしゃいます中原秀登委員ですが、先ほど報告しましたとおり、本日は欠席でございます。

最後に、元放送大学千葉学習センター長でいらっしゃいます宮野モモ子委員でございます。

- 宮野委員 宮野です。よろしくお願いいたします。
- 金井総務課主査 それでは、議事に入ります前に、お手元の次第に記載しております一覧により、資料の確認をお願いいたします。

不足などございましたら、お気づきになったときで構いませんので、事務局までお知らせください。

それでは、会議を開催させていただきます。なお、会長が決定するまでの間、教育総務部長が仮議長を務めさせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 金井総務課主査 ありがとうございます。
- それでは、布施部長、議事進行をお願いいたします。
- 仮議長（布施教育総務部長） それでは、皆様からご承認をいただきましたので、仮議長として会議の進行を務めさせていただきます。

それでは、議題に入らせていただきます。

まず、議題（１）会長及び副会長の選任を行いたいと思います。

会長の役割といたしましては、本委員会の議長を務めていただくほか、会議の招集など、会を代表していただきます。

また、副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理していただく役割となります。

なお、会長及び副会長の役職の任期は、各年度末までとなっております。

資料１、千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例の３ページになります。３ページの第９条第２項をお願いいたします。

会長及び副会長につきましては、委員の皆様の互選により選出することとなっておりますが、どなたか立候補または推薦等をされる方はいらっしゃいますでしょうか。

岡村委員、お願いします。

- 岡村委員 会長は、昨年も会長でいらした近藤委員に引き続きお願いしてはいかがでしょうか。

また、副会長は、会長が推薦することとしてはいかがでしょうか。

- 仮議長（布施教育総務部長） ありがとうございます。

ただいま岡村委員より、会長には近藤委員を、副会長には会長が推薦するとのご意見をいただきましたが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 仮議長（布施教育総務部長） ありがとうございます。

委員皆様からご賛同をいただきましたが、近藤委員、よろしいでしょうか。

○近藤委員 はい。

○仮議長（布施教育総務部長） ありがとうございます。

それでは、会長につきましては近藤委員に決定をさせていただきます。よろしく
お願いいたします。

続きまして、副会長を近藤会長から推薦をしていただきたいと思います。

近藤会長、お願いいたします。

○近藤会長 それでは、推薦をさせていただきます。

副会長には岡村委員にお願いしてはと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○仮議長（布施教育総務部長） 岡村委員、よろしいでしょうか。

○岡村委員 承知しました。

○仮議長（布施教育総務部長） ありがとうございます。

それでは、副会長は岡村委員に決定させていただきます。

ここで会長、副会長が選出されましたので、今年度ご審議いただく案件について、
会長へ諮問させていただきます。

〔諮問書手交〕

○仮議長（布施教育総務部長） それでは、これまで仮議長を務めさせていただきました
ましたが、ここで議長を近藤会長と交代したいと存じます。

近藤会長、よろしくお願いいたします。

○近藤会長 それでは、議事に入ります前に、本日のこの後の流れについて、事務
局からご説明をお願いいたします。

○渡邊総務課課長補佐 総務課課長補佐の渡邊でございます。どうぞよろしくお願
いいたします。

それでは、議事の流れについてご説明させていただきます。

本日は、議題にございますとおり、「千葉市生涯学習センター」、「千葉市科学
館」及び「千葉市公民館」の年度評価をお願いいたします。

年度評価は、今後の管理運営をより適正に行うため、各年度の終了後、市が履行
を確認し、それを選定委員会に報告するとともに、意見を聴取するものでありま
す。

初めに、議題（２）ア、千葉市生涯学習センターの年度評価についてですが、ま
ず、施設の所管である生涯学習部から施設の評価に係る資料について説明をいた
します。次に、委員の皆様から質疑・応答とともに、管理運営状況や財務状況の
確認、サービス向上や業務効率化の方策などのご意見等を伺いたいと考えており
ますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

同様の流れにより、議題（２）イ、千葉市科学館及びウ、千葉市公民館について
も、所管である生涯学習部からの説明の後にご意見等をお願いいたしたいと考
えております。

最終的にいただいたご意見を取りまとめたものを選定評価委員会として教育委員
会に対する答申としていただくこととなります。どうぞよろしくお願いいたしま

す。

○近藤会長　それでは、次第に従いまして、議事を進行してまいります。

議題2「指定管理者の施設管理に係る年度評価について」、ア「千葉市生涯学習センターについて」に関し、事務局から説明をお願いいたします。

○潮見生涯学習部長　生涯学習部の潮見でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、1の「公の施設の基本情報」ですが、基本情報は記載のとおりです。

成果指標を3点設定しておりまして、1つ目は「市民生活や地域社会の課題を学ぶ機会を提供する」、2つ目は「学習成果が生きる地域づくりを進める」、3つ目は「学びを支える環境づくりを進める」。

それぞれに対応する数値目標として、①は延べ受講者数3万5,000人、②はボランティアコーディネート件数260件、③は施設利用率55%を設定しております。

次に、2、「指定管理者の基本情報」ですが、指定管理者名は公益財団法人千葉市教育振興財団、指定期間は平成28年4月1日から令和3年3月31日までの5年間、選定方法は非公募で、その理由につきましては記載のとおりでございます。

3の「管理運営の成果・実績」の(1)成果指標に係る数値目標の達成状況ですが、1つ目の延べ受講者数は、目標の3万5,000人に対し4万301人、2つ目のボランティアコーディネート件数は、目標の260件に対し234件、3つ目の施設利用率は、目標の55%に対し64.74%となっており、2つ目が目標の9割程度の達成率でしたが、残る2つは大きく目標を上回っております。

なお、(2)その他利用状況を示す指標として施設利用者数を設定いたしました。平成30年度は22万5,094人でした。平成21年度からこの数値を取り始めていますが、過去最高となっております。

4、「収支状況」の(1)必須業務収支状況ですが、収入は、合計欄の実績欄6億324万4,000円で、計画と比べますと456万円の増となっております。主な要因は、施設利用者の増によるものです。支出は、合計の実績欄5億6,814万6,000円で、計画と比べますと3,053万8,000円の減となっております。主な要因は、当財団の公民館指定管理事業の受託に伴いまして、間接費が計画比2,168万円の減となったことなどによるものです。

(2)の自主事業収支状況についてですが、収入は261万9,000円、支出は310万9,000円となりました。

(3)の収支状況についてですが、必須業務と自主事業を合わせまして、3,460万8,000円の黒字となっております。

次に、5の「管理運営状況の評価」ですが、まず(1)管理運営による成果・実績について、先ほどご説明しました成果指標の目標達成状況はご覧のとおりとなっております。市の評価はBとCとBとなっております。

(2)の市の施設管理経費縮減への寄与につきましては、指定管理料支出が選定時の提案額から1.7%の減に止まりましたので、評価はCとなっております。

次に、（３）管理運営の履行状況についてですが、平成３０年度指定管理者モニタリングレポートをご覧ください。

モニタリング項目に従いまして、指定管理者の提案内容が記載されております。プラス評価欄は、市の条例や市が示した管理運営内容を上回って提案された項目に◎と、その内容を記載しています。

また、確認結果欄は、上記の点線囲みにありますとおり、提案内容を基準としまして、それを上回れば◎などと記載し、◎や×のついた項目についてはその具体的な内容を最後のほうに記載してあります。

例えば開館時間、休館日は、条例上は休館日は毎週月曜日と記載されておりますが、提案により毎月第４月曜日のみ休館となっております。その下、利用料金についても柔軟な設定を提案しております。

また、無線LANによるパソコンのインターネット接続環境を構築の提案もしております。

次に、フェイスブック等のSNSの活用による事業PRや活動記録の掲載を提案しております。

次に、管理運営の基準では、利用者を対象としたアンケート等の実施を提案しておりますが、それに加え、有識者などが構成委員となっている懇談会あるいは事業の第三者評価の実施を提案しております。

次に、指導者の養成事業としてイベントスペースを活用したボランティア活動の紹介、講座・イベントの開催による登録者と依頼者の橋渡しの強化を提案しております。

次に幅広い学習ニーズに合わせた講座等の実施では、指定管理事業で扱っていない市民ニーズの高いテーマについて９講座の実施を提案し、そのとおり実施しております。

次に料金改定や時間区分の見直しをはじめ、各施設の機能見直しによる利用促進策や利用者満足度向上策を提案しております。

それらがどのように運営されたかについてですが、開館時間・休館日では、提案どおり毎月第４月曜日のみを休館としております。

利用料金の設定、減免では、提案どおり柔軟な利用料金を設定し、ホールの利用日１カ月以内に練習のみで使用する場合や、一部の諸室について施設使用日の６日前から当日に申し込む場合に減免することとし、利用者に周知しております。利用促進方策も、利用者意見の聴取も同じく、提案どおり実施されております。

幅広い学習ニーズに合わせた講座の実施では、民間事業者との協力による講座や大学等の公開講座など、市民ニーズの高いテーマについて９講座の実施を計画していますが、合計４１の講座やイベントを実施し、より幅広い学習ニーズに合わせた学習機会の提供に努めております。また、施設設備の貸出し業務では、工芸研修室のような利用の少ない施設に利用頻度の高い会議室や研修室の機能を合わせ持たせたり、より利用しやすい時間や利用設定に見直すなどといった利用促進策を行っております。

次に、（４）千葉市教育委員会指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応で

す。いずれも平成29年度に当委員会からいただいた意見です。

まず、「ボランティアのコーディネート件数については、引き続きモニタリングをしながら目標値に向けて努力すること」につきましては、学校や公民館等を直接訪問し事業説明をするなど広報活動を実施いたしました。

次の「一般向けの就労支援に限らず、高齢者向けに将来に向けてのキャリア教育の充実を図ること」につきましては、幅広いプログラムづくりを目指しており、今年度、セカンドキャリア形成の一つの方向性として、地域活動やボランティア活動へのきっかけとなるような講座を実施いたします。

3つ目の「平成29年度に実施した市民アンケートによる実態調査の分析結果を、今後の事業の充実に向けて活用すること」につきましては、世代による学習ニーズの違いへの対応が必要であることが明らかになったため、事業の見直しを行ったほか、ホームページのリニューアルやSNSによる発信のあり方の検討を現在行っているところです。

6の「利用者ニーズ・満足度等の把握について」ですが、まず、アの受講者アンケートでは、8,787件の回答があり、いずれの講座等においても「満足」と「やや満足」の合計が95%を超える高い満足度を示しております。

次に、イの貸し出し施設利用者を対象とした利用者アンケートにつきましては、9,082件の回答があり、95%を超える方が「とてもよい」あるいは「よい」と高い評価をいただいております。主な意見といたしましては、「設備がきれいで職員の対応が丁寧である」といった内容となっています。

次に、ウのインターネットアンケートにつきましては、8件の回答となっております。受講者アンケートや利用者アンケートを実施していることから、回答が少ない状況となっております。

(2)市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応ですが、和室に服をかけるところが欲しい、トイレの場所が分かりづらい、駐車場と駐輪場の案内表示が見えづらいなどがありましたが、それぞれ対応しております。

最後に、7の「総括」をご覧ください。(1)指定管理者による自己評価はB、(2)市による評価はBとなりました。

市の評価の所見ですが、市民の幅広い学習ニーズに対応した講座を実施したことや、施設設備の充実、利用方法の改善などにより、講座の延べ受講者数と施設利用率の成果指標の数値目標を2項目で達成したこと、施設利用者数が過去最高を記録したこと、その他、建築物・建築設備等の補修点検や修繕について適切に対応するとともに、自主事業も積極的に行われていることにより、優れた管理運営が行われたことなどがあります。

説明は以上です。よろしく申し上げます。

○近藤会長　それでは、まず、指定管理者の倒産、撤退等のリスクを把握するという観点から、指定管理者の財務状況について、公認会計士でいらっしゃる岡村委員のご意見をお聞きしたいと思っておりますので、岡村委員、お願いいたします。

○岡村委員　それでは、資料の平成29年度決算報告書をもとにご説明します。

貸借対照表でございまして、この事業体が所有している資産の金額があります。

それから、掲載した以外に返済しなければならない金額、負債でございます。これを差し引いたものがこの事業体の正味の財産です。この正味財産を拝見しますと、ある程度の金額になっておまして、総資産に対する全ての資産に対する自分の取り分は40%程度、これは純資産比率というのですけれども、前年と変わらず、非常に安定しているというのが1点です。

次に、流動比率というのがございまして、流動資産合計が約4億7,700万円となっております。「これはすぐお金にできる、払う原資となるもの」でございます。負債の部の流動負債が約3億7,800万円あります。これは「基本的に1年以内に払うお金です」というものです。この比率を見て、流動負債より流動資産のほうがどれぐらい多いのかということが、倒産しないかどうかの一つの基準となります。これを流動比率というのですけれども、100%を超えて、126%となっておりますが、安全性からは、この数字は決して高い数字ではないです。しかしながら、この中の科目名を見ますと、現金預金と未収金が大部分を占めており、つまり「在庫を持っていて、その在庫を売らなければお金になりません」というようなことはないということを考えますと、ほとんどが金銭・債券ですので、支払い能力の観点からもまず大丈夫ではないかと判断されます。

それと、もう一つ、貸借対照表について申し上げますと、勘定科目が分かりやすく書かれており、これを見る限り、会計士としては特段気になるところはないと申し上げておきます。

次に、正味財産でございますけれども、業績も基本的に問題なく、淡々とやっておられると思います。

それと、もう一つお伝えしたいのですけれども、資料に注記表というものがございまして、この注記表の中身を見ましても、特段おかしな点はございませんので、その注記表と決算書を見る限り、大丈夫であろうと思われれます。

また、資料に監査報告書がありますが、この監事の総合意見についても全く問題ない、適正であるとのことですので、まず間違いはないというところでございます。

以上でございます。

○近藤会長　ただいまの岡村委員のお話について、ほかの委員の皆様から何かご質問などはございますか。

〔発言する者なし〕

○近藤会長　それでは、質疑がないようですので、続きまして、先ほどの事務局からの説明内容の質問や指定管理者の施設管理運営のサービス水準向上、業務効率化の方策、改善を要する点などについてご意見をお聞きしたいと思っておりますが、ここで委員の皆様からご意見をいただく前に、生涯学習センターの評価に関しまして、本日ご欠席の中原委員からのご意見をいただいておりますので、事務局より報告をお願いいたします。

○渡邊総務課課長補佐　中原委員からお預かりしているご意見を読み上げさせていただきます。

生涯学習センターの評価については、次のとおりです。

「1点目として、確かに今回は（4）の収支状況に気を配った活動では評価され

ます。

2点目として、平成29年度に指摘されたボランティアコーディネートの件で、確かに対応がとられてはありますが、平成30年度の達成率で90%ではやはり対応に問題があると思われるのでは無いのでしょうか。

3点目として、管理運営の履行状況で、市の評価でBが3つ、Cが4つであるにもかかわらず、7の総括評価でB評価となっていることに違和感を覚えます。

4点目として、今回の施設利用率が確かに65%を達成したことは評価されますが、もともとこの水準がスタート地点であり、今後の利用率のさらなる向上を期待します」ということをごさいました。

以上でございます。

○近藤会長　それでは、委員の皆様、生涯学習センターの評価に関しまして何かご質問、ご意見はございますか。

○岡村委員　意見ではないのですけれども、千葉市教育委員会指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応について、ただいまご説明いただいたところです。これにつきまして資料を拝見すると、「ボランティアのコーディネート件数については、引き続きモニタリングしながら、目標値に向けて努力すること」については「広報活動を行った」とのことです。「一般向けの就労支援に限らず、高齢者向けに将来に向けてのキャリア教育の充実を図ること」では「幅広い視点でのプログラム作りを目指している」との記載があり、「平成29年度に実施した市民アンケートによる実態調査の分析結果を、今後の事業の充実に向けて活用すること」では「企画を実施予定」という旨の記載があり、さらに、同意見に対して「事業の見直しを行った」との記載がありました。

また、今後、リニューアルを実施したので料金改定を実施予定ということで記載されております。この点について、今回の委員会が開催されるにあたり、教育委員会に対して、この1年間で具体的に何をやったのかをお聞きしました。その結果を判断のためにここで公表させていただきたいと思っております。

計画的にきちんとやっていらっしゃるというのは把握しています。ボランティアのコーディネート件数でございますけれども、小学校10校、中学校7校、公民館8館とか、公民館職員向けの会議6回、校長、教職員向け研修会3回といった、概ね達成したというようなことを書いてくれていましたので、ちょっと安心しました。

次のキャリア教育です。結論的にほぼやっていただいているということをお伝えしておきたいと思っております。その上で、また皆さんご判断いただければと思っております。

以上でございます。

○潮見生涯学習部長　中原委員の質問にもありましたように、コーディネート件数があまり伸びていないのですけれども、今、先ほど少しご説明しましたように、学校とか公民館を直接訪問して、その結果、かなりコーディネート件数は現状増えてきております。今年度はクリアされるかなと考えております。

それから、高齢者向けのキャリアというか、就労の話ですけれども、これは生涯学習センターの事業以外にも、市としてもともとあるシルバー人材センターのほ

かに、生涯現役応援センターというものを立ち上げまして、そこの事業として生涯学習センターを使って月に一、二回の講座、出張相談というものを始めましたので、これも今年度になってまたさらに加速しております。

以上です。

- 近藤会長 他の委員どうでしょうか。
- 岡村委員 引き続きモニタリングをしていただくよう、ぜひお願いをしていただきたいと思います。
- 中野委員 ボランティアコーディネートの件数の話ですけれども、昨年から13件ほど増えたという話で、具体的にはどういう内容のものが増えたのか教えていただけますでしょうか。
- 上原生涯学習振興課主任主事 平成30年度決算報告書をご覧ください。
主に増えているところとしては、生涯学習施設、生涯学習センター、コミュニティセンターが8件、ほかに民間福祉施設、デイサービス、老人ホーム等、こちらが30件増加という状況になっております。
- 中野委員 ありがとうございます。全体として13件は増えているけれども、学校関係は、減っているような様子もあると思うのですけれども、この辺のコーディネート事業の需要等というのは、感覚としてはどうですか。
- 上原生涯学習振興課主任主事 需要自体はあるのですけれども、昨年度から学校や公民館を訪問して事業のPRを始めましたので、昨年度の中ではなかなか数字に反映しづらい部分がありました。今年度は、昨年度以上に増加する、その活動が成果を出し始めているといったところで順調に推移はしているのですけれども、ただ、問題点というか課題として、一度紹介してしまった場合に、仕方のないことなのですが、2回目は生涯学習センターを通さずに直接依頼をしてしまうということがありますので、実態としてはこの成果というのは出ているのですが、数字に出てこない部分もありますので、引き続き事業説明を展開して数字にも出てくるような形にしていきたいと考えております。
- 中野委員 デイサービスとか老人ホームが増えているというのは、そこは需要も大きいからですか。
- 上原生涯学習振興課主任主事 そうですね、需要も大きいですし、リピーターの方々もいたようです。
- 中野委員 平成29年度の意見を踏まえて、平成30年度は広報等もかなり頑張られたと思ったので、その効果がこれから出てくることを期待します。
- 宮野委員 生涯学習センターのほうも年々充実をしていっているなという印象を受けます。千葉県生涯学習ボランティアセンターの運営について、ここのボランティアセンターなどに登録する場合に、留学外国人の方というのはいらっしゃるのでしょうか。在住の外国人の方がもしも登録をしていた場合は、語学講座といったものを設けてもいいなと思いました。日本語ボランティアというのは日本人の方がやって、留学している人とかあるいは外国人の方だったら、そのお国の語学のボランティアをしていただけるのかなという思いもありました。そういうこともいいなと私は思いました。

それから、学習成果の発表の機会の提供ですが、生涯学習センターは中核的に千葉市の生涯学習についてのいろいろな施設等のつなぎ役のようなこともしていると思ったので、今回、公民館も同じ教育振興財団がなさっているのでもやりやすいかなと思います。例えば、公民館フェスタといいますか、千葉市の47の公民館はそれぞれどのような特色を持ってやっているのかなというのが、ぱっと行ったら全部見えるようなフェスタをやってもいいかなと、公民館がどう思うか分かりませんが、そういうのも生涯学習センターの役割としてあってもいいのかなと思いました。特色のある学習文化活動を公民館フェスタとして発表するというようなことも中核的施設としてのつなぎの役割としていいなとは思いました。

それから、その他の業務についての、取材報告や情報提供というところがあるのですが、これに市民が参加して行く、例えば千葉市各地域の町並み紹介のようなものもやってもいいなと思いました。なぜなら来年はパラリンピックもあり、千葉市の各地域の町並みを紹介するのを市民が動画で作り、いわゆるパソコン等いろいろな教室をやっているやいますよね。それを活かしてということですが、メディア学習の成果をつなぎたいと、動画を作ってスマホに流すとか、また各公民館で生き生き活動している人物の数名を紹介していくとか、そういうことを市民の方が行えるような、そういう各地域の町並み、千葉市の各地域の町並み紹介のようなものも、私だったらいいなと思った次第です。

それから、蛇足かもしれませんが、4月の利用者アンケートについて、ちょうど私の専門は音楽ですので、ピアノの質について、昨年もピアノの調律についてお話が出ていて、調律もされていると思うのですが、やはりピアノの質が悪いと、これは個人的にもいろいろ好き嫌いがあるとはいえ、調律しても悪いと言われてしまうと、このピアノはどうしたものかと感じてしまいます。調律前の温度を何とかしてほしいとかいうのも出ていましたが、4回調律をやってもピアノに文句が出る場合は、オーバーホールか買い替えが必要だなと思った次第です。これは蛇足で、自分の専門なもので思いましたので、いいホールだそうですから、また従業員の方も非常に良いとアンケートで出ていましたので、楽器の程度が高いほうがいいなと思いました。それだけです。

- 潮見生涯学習部長 ありがとうございます。いずれも指定管理者と協議しながら取り組んでいきたいと思えます。
- 宮野委員 よろしくお願いたします。
- 上原生涯学習振興課主任主事 ピアノにつきましては、やはり調律の要望がありますので、オーバーホール、鍵盤などの中の交換といった対応を考えております。
- 宮野委員 そうですね、フェルトがもう摩滅しているのかですね。
- 上原生涯学習振興課主任主事 見積もりを取った、まだその段階ですが、今後検討したいと思えます。
- 宮野委員 よろしくお願いたします。
- 近藤会長 以前、私の子どもですけれども、生涯学習センターでピアノの発表会を行った記憶があるのですが、そのときは基本的にヤマハのピアノ教室だったので、それほどピアノの調子は悪くなかったと思っていました。

- 宮野委員 ええ、その辺、いろいろ難しいですね、個人の感覚、感じ方みたいなものも手伝う場合がありますね。
- 近藤会長 なので、もう娘も大分大人になりましたが、まだ小学生ぐらいの話でして、そのときには先生たちの意見からもピアノの調子について特別触れなかったのです。
- 潮見生涯学習部長 経年劣化があると思います。
- 近藤会長 そうですね。それに関しては、やはり自分の娘は小学校のときに利用していて、今はもう二十過ぎましたので、その間の10年や20年の間には、やはりどうしても劣化してくることもあると思います。市民の皆様にはせっかくご利用をしていただくので、なるべく早い段階でそういったところを対処していただけるといいかなと思います。よろしく願いいたします。
その他は大丈夫でしょうか。
- 潮見生涯学習部長 先ほどの中原先生のご意見の中で、評価の話が出ていましたが、「総括評価の目安」のルールに則りますと、全体の20%以上にBがついて、DとEがなければ総合評価はBということになっております。それと、感覚としてCが多いじゃないかということだったのですが、Cは特に問題なく運営が出来ていてCですので、Bがつくということ自体がかなり高評価だということなのです。
- 岡村委員 この評価の仕方について確認させてほしいのですけれども、指定管理者年度評価シートの施設管理能力の「施設の維持管理業務」ですけれども、指定管理者の評価がBになったのですね。
- 近藤会長 総括の指定管理者による自己評価、市による評価がBになっていて、ここに関していかなものかという意見です。
- 潮見生涯学習部長 管理運営の履行状況についての市の評価が、C、C、C、B、B、B、Cとなっており、全部で7項目のうち、3つがBで、4つがCになっています。総合評価はBなのかという疑問だったのですが、7項目中3つBがつけば、D、Eがない限り、総合評価はBになりますので、これだけBがつけば十分だということなのです。
- 岡村委員 特に問題なく運営していたということですね。
- 潮見生涯学習部長 市の基準よりも上回って提案したのも、しっかりできているというようなこともあります。
- 岡村委員 その程度がありますよね。どれだけ上回ったか、それもちゃんと勘案されましたか。
- 潮見生涯学習部長 そこは、かなり主観的になってしまう部分ですが。
- 岡村委員 主観的でも、これはいいのだと、そこに着目してくればそれでいいと。
- 潮見生涯学習部長 その提案でかなり頑張って提案したものがそのとおりでできているということも相当評価されますし、提案にはないけれども、すごくよくやったというものもあるでしょうし、基本的にはかなり積極的に上回った提案をしていまして、それをしっかりやっているということの評価が今回高かったということです。指定管理者モニタリングレポートの中で、既に提案時にプラス評価◎が

ついているものが、そのとおりに出来ていますというものが多かったです。提案時にもう既に上回った提案をしているのに、さらにそこに工夫を加えて大幅に講座を増やしたりなどといったものもあります。そういったところは点数を高くつけています。

- 岡村委員　実際にモニタリングや現地視察をした際に、頑張っているという感覚があったということですか。
- 中島生涯学習振興課長　当然、年に1回きっちりモニタリングもしておりますし、あと月次の報告の中でも施設に行くなど、そういう形で年に1回だけではなくて、年間を通して、随時、実際に現場を見て、行っている事業なども確認をしております。その中で、提案を上回る事業もありますので、その点につきましては評価をしております。
- 岡村委員　主観的判断の介入のことは確認しているのですけれども、それについてまた別の目で確認されているということですのでよろしいですね。分かりました。
- 近藤会長　中原委員から意見のあった利用率の好調というところの内容に関して何かありますか。
- 潮見生涯学習部長　現在も目標を超えていますので、なかなかこれだけは利用率、コマ数の全てが埋まるわけではありませんので、特に平日ではこの水準はかなり高いのではないかと考えます。
- 上原生涯学習振興課主任主事　施設利用率ですけれども、平成25年時点では46%でして、平成26年も51.6%、これでも当時上がってきて、これぐらいの数字でしたので、55%で目標を決めたときには適切だったかと思われるのですが、ここ数年でさらに利用率を上げてきているので、目標が低く感じられるような状況にはなっているのかなと考えます。
- 近藤会長　今おっしゃった平成25年度からの資料に関して、少しでいいので、こういうところに載せていただくようなことというのはできないのでしょうか。そういうものがあれば、こちらとしても中長期的な形で見ることができるとは思いますが、今回のこの資料だけで評価していくというのはとても難しく、私たちとしても、この中にある資料だけを読んで、そこがどうしても疑問になってきてしまいます。ですので、そういう資料をこういうところに少し載せて参考資料というような形をとれば、年々こういう形で推移してきているから、ここに関しては、評価として○だな、という形が一目瞭然でわかると、私たちも大変助かります。
- 潮見生涯学習部長　資料に空欄がありますので、来年以降は、その辺りに資料を追加します。
- 近藤会長　委員のみなさん、いかがですか。
- 宮野委員　いいですね、お願いしたいです。
- 近藤会長　では、そういうところを含めて、資料のほうの作成の仕方も工夫していただけるとありがたいと思います。

そのほかは。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○近藤会長 では、ご意見がなくなりましたので、こちらのほうに、アに関して委員からありました意見などは答申案として事務局にまとめていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、次に、イの千葉市科学館について事務局からご説明をお願いいたします。

○潮見生涯学習部長 それでは、科学館の評価につきましてご説明させていただきます。

指定管理者年度評価シートをご覧ください。

基本的には、生涯学習センターと同じ形で評価をしておりますので、同様の部分は少し割愛しながら説明させていただきます。

まず、1の「公の施設の基本情報」はご覧のとおりでして、成果指標と数値目標は各番号が対応しています。

①の入館者数は40万人、②の利用者アンケートにおける利用者満足度は97%、市内小学校団体利用の割合は100%を、それぞれ設定しております。

次に、2の「指定管理者の基本情報」です。指定管理者名は、コングレ・東急コミュニティー共同事業体、指定期間は平成29年4月1日から令和4年3月31日までの5年間となっております。

3の「管理運営の成果・実績」ですが、数値目標のうち2つは、市の目標を上回って指定管理者が設定しております。1つ目の入館者数は、目標の45万5,500人に対し48万4,671人、2つ目の利用者アンケートにおける利用者満足度は、98%の目標に対し96.8%で、市の目標97%も下回っております。3つ目の市内小学校団体利用の割合は100%でした。

成果指標とは別に、科学館の利用状況を示すその他の指標として、プラネタリウム稼働率を設定しています。平成30年度の実績は30.6%で、平成29年度の33.4%から2.8ポイント下回っております。

次に、4の「収支状況」ですが、必須業務収支状況の収入、合計欄の実績欄5億332万1,000円で、計画比で614万7,000円の減となっております。主な要因は、ミュージアムショップの売上げが計画より減ったことによるものです。

次に、支出は、合計の実績欄5億24万8,000円で、計画比で922万円の減となっております。主な要因は、ミュージアムショップの売上げに伴うものと職員の減によるものです。

(2) 自主事業収支状況は、収入は281万2,000円、支出は192万9,000円となりました。

(3) 収支状況合計は、収支は395万6,000円の黒字となっております。

次に、5の「管理運営状況の評価」の(1)管理運営による成果・実績ですが、先ほどご説明しました成果指標の目標達成状況で、入館者数はA、その他の項目はCとなりました。

(2) 市の施設管理経費縮減への寄与ですが、指定管理料支出が選定時の提案額と同額でしたので、評価はCとなっております。

次に、（３）管理運営の履行状況についてですが、指定管理者モニタリングレポートの利用料金設定・減免の項目で、指定管理事業者より以下についても減免の提案がされているということで、幼稚園・保育園生、高校生の無料開放、青少年のための科学の祭典、千葉市科学フェスタ、千葉市立小・中・特別支援学校の総合展覧会の科学部門、こういったもので減免の提案がされております。

「基準に満たない項目」、確認結果で×がついているところですが、まず管理運営の執行体制で提案書では５３人、年度計画では５６人となっていましたが、各月の在籍職員数の平均は５２．８人でした。改善の方向性は、早期に基準人数を達成するべく採用活動を続けている。なお、現在では５６人の計画数に達しているという状況です。

それから、その他の事業として、提案書において科学館のメンバー、科学館年度会の会員数の目標が平成３０年度に１万人となっておりますが、年度末時点で４，６４５人ととどまっております。指定管理者としては、会員制度や周知方法について見直しを図っていくということです。

「優れた管理を行っている項目」では、必要な専門職員の配置、博物館の学芸員を２４人配置しております。従業員の能力向上では、通常研修に加え、休館日を活用した職員全体での館外研修を実施しております。展示事業では、恐竜や鏡を題材とした体験を重視した企画展示を実施したことで、入館者数の増加につながっております。また、プラネタリウム事業では、アニメや恐竜などの人気コンテンツを積極的に導入し、来館者数の増加に貢献しております。市の事業への協力で、千葉氏に関するプラネタリウム番組を新たに作製したり、天文講座を計画４回に対し、実績９回の実施をしております。

指定管理者年度評価シートの補足資料ですが、ただいまのモニタリングでそれぞれの○・×を転記しております。施設における事業の実施ということで、評価の修正をいたしました。点数から評価Ｃとなりますが、特記事項に記載のとおり、さまざまな企画により過去最高の入場者数を記録しましたので、評価をＢとしています。

指定管理者年度評価シートにお戻りください。

ただいまご説明しました内容がこちらに転記されています。

次に（４）教育委員会指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応としまして、まず１点目は平成２７年度ですので、前の指定管理者への意見ではありますが、「利用者数、プラネタリウム稼働率について、さらなる増加を目指すこと」につきましては、利用者数は前年度比１割以上増加しました。なお、プラネタリウム稼働率は前年度を下回りました。これは、投影回数をサービス向上の観点から増やしたことにより、分母が大きくなったため、計算上稼働率が下がってしまったというものです。プラネタリウム利用者数は前年度より７％増加しています。

次に、昨年度いただいた「人的組織体制については、管理運営の基準に定められた人員を確実に確保すること」についてですが、年次計画書の配置人数５６人に対し、月末平均は５２．８人ととどまりました。これにつきましては、我々も再三にわたって指導しましたが、昨年度は実績に届きませんでした。しかし、現在

7月時点では56人を満たしております。質の高い職員の求人の難しさ、あるいはこれだけの職員数があることから退職等もあり、なかなか採用しても満たせないという状態が昨年も続いていたという状況です。現在は、達成しております。

次に、同じく昨年度いただきました「平日の利用者が少ないため、高齢者を対象としたプログラムを増やすなど、一年を通して稼働率を上げられるような企画を検討すること」につきましては、平日開催の講座として「大人の工作教室」を前年の2回から7回に増やし、その中でシニア向けのクラフト講座も新設したところです。

次に、6の「利用者ニーズ・満足度等」の把握ですが、まず利用者アンケートでは496票の回答があり、科学館の全体印象としては、「とてもよい」と「まあよい」の合計が93%と高い満足度を示しております。施設の印象につきましても、「とてもよい」と「まあよい」の合計が91.6%となっております。

また、成果指標の利用者満足度に用いております再来館の意思是、「ぜひ来てみたい」と「機会があれば来てみたい」の合計が96.8%となり、市の設定した成果指標の97%を0.2ポイント下回る結果となっておりますが、96.8%の方がまた来たいと言っているということは、それなりの満足度ではないかと市としては判断しております。

続きまして、(2)市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応ですが、「休憩できる場所が少ない」との意見に対応しまして、10階のラウンジに余裕がなかったので、7・8階の観覧動線と重複しない場所に一時的に休憩できる椅子を用意いたしました。

また、「停止中・調整中の展示物が多い」との意見が寄せられていますが、展示物の不具合が発生した際には、専門のスタッフが迅速な修繕を行っております。

最後に、7の「総括」ですが、指定管理者による自己評価は、年間利用者数が過去最高を記録したこと、施設外でも地域貢献を果たしたこと、教育普及事業で目標講座数を達成したことなど、あるいは千葉県科学フェスタの成功に貢献したことなどからBとなりますが、市による評価につきましては、先ほどの評価の目安に従いますとCとなっております。

市の評価はCになりますが、年間の利用者数が過去最高を記録し、特に企画展の入場者数が過去最高を記録したこと、また千葉県科学フェスタで新しい試みに挑戦しておりまして、プラネタリウムの番組にも人気コンテンツを取り入れたことなど、評価すべき点も多かったのではないかと考えております。

説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

- 近藤会長　それでは、先ほどと同様に、指定管理者の倒産、撤退等のリスクを把握するという観点から、指定管理者の財務状況について岡村委員のご意見をお聞きしたいと思いますので、お願いたします。
- 岡村委員　それでは、株式会社コングレの29期報告書をご覧ください。貸借対照表と損益計算書がありますが、ご覧のとおり、貸借対照表、損益計算書とも、大まかな内容でございます。注記表もついていないですが、その範囲内で見ても、まず、貸借対照表ですが、先ほどと同様に純資産の金額の合計で見ますと、57

億円程度、総資産が102億円程度でございますので、純資産は厚い会社であると判断します。

流動比率をしてみますと、流動資産の合計が80億ございまして、流動負債が、37億2,300万円です。そこそこ高い比率になっています。

損益計算書でございますけれども、利益が税引き後で7億円程度になっていますので、この決算書を見る限り、黒字であって、まずまずの金額が出ています。

注記表がなく、それから監査報告書も添付されていないなかでは、そこまででしか判断できないのですけれども、純資産が厚くて、まずまずの利益が出ている、そこは申し上げられます。そこまでに留めたいと思います

続きまして、株式会社東急コミュニティーの貸借対照表、損益計算書について、同様に大変純資産を多く出している貸借です。注記表等が出ていますし、グループとして公開もされておりました、適正意見の監査報告書も出てございますし、これだけの会社ですので、まず大丈夫でしょう。

以上でございます。

○潮見生涯学習部長 少し補足していいですか。

○近藤会長 はい。

○潮見生涯学習部長 これにつきまして、昨年もこのコングレの資料が非常に大まかになっていて、もう少し何とかならないのかというご意見をいただきましたので、私たちも同じ思いでしたので、会社に確認しているのですが、コングレによりますと、その注記表や監査報告書、有価証券等その他の資産、返済については公表していないということで、これ以上のものが提出できないという状況です。

○岡村委員 仕方がないです。

○近藤会長 ただいまの岡村委員のお話について、ほかの委員の皆様何かご質問はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○近藤会長 続きまして、先ほどの事務局からの説明内容への質問や指定管理者の施設管理運営のサービス水準向上、業務効率化の方策、改善を要する点について、ご意見をお聞きしたいと思いますが、ここで委員の皆様からご意見をいただく前に、科学館の評価に対しまして中原委員からのご意見をいただいておりますので、事務局より報告をお願いいたします。

○渡邊総務課課長補佐 科学館の評価について、中原委員からお預かりしているご意見について読み上げさせていただきます。

1点目として、「確かに今回、入館者の増加や堅実な収支状況は評価されます。ただし、指定管理者年度評価シートの5の(1)の管理運営状況の評価で、アンケート利用の満足度や団体利用割合での目標値は100%というのは、あくまでも理想であって、満足度100%では改善の意欲が薄れることもあり、目標数値の100%を上回るA、Bの評価を得るのは無理ではないでしょうか」というご意見が1点。

2点目として、「5の(3)の管理運営の履行状況において、自己と市の評価の食い違いが目立ち、市の評価が妥当と思われませんが、このずれは施設管理へ取り

組む認識や姿勢の違いともなるので、市としては、この点を指定管理者へ伝達、指導してはいかがでしょうか」というご意見。

3点目として、「7の総括の市による評価のほうの所見の（7）のところなんです、会員目標の1万人に対して半分も満たせず、D、E評価に値するものであり、目標設定など原因追及の上、迅速な対応が望まれます」という、以上3点のご意見をお預かりしております。

以上でございます。

- 近藤会長　ただいまの中原委員のご意見に対して事務局から何かございますか。
- 潮見生涯学習部長　確かに100%を目標にすれば、C以下しかないという仕組みになってしまっております。ただ、利用者満足度はこの程度は欲しいものですし、市内の全ての小学校には科学館を見ていただきたいので、このような目標になっております。当初の設定がこうなっているので、今になって変えることはできないというのが実態です。

それから、評価が食い違っているという話ですが、先ほどご覧いただきました補足資料に従って評価していきますと、市の評価というのは自動的にBやCがつきます。一方で、指定管理者は、この文言を見て自己評価しています。市がこういう観点で評価していることを次回こちらから示して、今後は、食い違いがないようにしたいと思います。

それから、最後の1万人の目標ですが、メンバー会員になると料金が安くなりますので、ハードユーザーは本来そちらに流れる方が得だとは思うのですが、現実として入館者数そのものは増えておりますので、そういうメリットを使わずとも利用者が増えているということで、この目標については、市はそれほど危機意識を持っておりません。もちろんリピーターが多ければ多いほどいいのですが、結果として入場者が減ってきているというのではないので、さほど不安に感じてはおりません。

以上です。

- 近藤会長　それでは、皆さんの科学館の評価に関してご質問、ご意見はございますか。

まず、私から意見を申し上げてよろしいですか。メンバー会会員設定目標の1万人について、実績が4,000人程度に留まっているとのことですが、その方たちというのは千葉市民の方がほとんどですか。先ほどのお話の中で学校という話がありましたが、以前、科学館を訪れる学校を100%にしたほうが良いという意見を述べさせていただきました。そのときには、千葉市内の学校が全部来ていないのに、ほかの方たちに来ていただくといっても、なかなかそういう意見というのは広がらないから、まずは子どもたちが行って、「楽しかったよ」ということを親や祖父母に言えば、また夏休みなどに、子どもたちを連れて親などが来るから、まずは市の学校を、内容に関しては中学生よりは小学生向けの内容が多くなっていると思うので、まずは小学校に100%来てもらうことから始めないと、一番利用してくれる部分が多いところを無視してはいけないのではないかと意見を申し上げさせていただきました。昨年度100%で、今回も100%で、

利用者数も増えているというところかというと、もう既に祖父母といった市内の方々はそういった形で、会員権を取得して行っているのかもしれないけれども、そのほかのところにもアピールはしていかないと、会員数は増えないと思います。市内の学校以外で、市外に対してそういったアピールといったことはしているのでしょうか。

- 八斗生涯学習振興課統括管理主事 確かに市外からの来館者は多いです。先日も銚子市の清水小学校からの訪問があり、また、市原市から来ているという学校もありました。ただ、それに対して積極的に情報発信しているかというところ、正直、把握できていないところです。今後それをしっかりと確認して参りたいと思います。
- 潮見生涯学習部長 さまざまな雑誌類で、いわゆる定期的に出ているようなミニコミ誌も含めて、かなり千葉市に取材が来ています。そういうことで、いろいろな媒体が無料でコマーシャルしてくれています。メンバー会員を重要視した点は、こういう施設は、開館当初はよいのですが、だんだん減っていくということがあります。リピーターを確保しなければいけないということです。幸いなことに、いまだに入場者数が落ちずに、40万人レベルを保って、しかも増えてきていますので、そういう意味では、先ほども申しましたが、それが達成しないからといって、それほど危機感を持っていないというのが実態です。ただ、おっしゃるとおり、リピーターの確保は大事ですので、いろいろな面で工夫して周知を図っていく必要はあると思いますし、科学館もそう思って努力はしているようであります。
- 八斗生涯学習振興課統括管理主事 広報なんですけれども、事業報告書に広報・プロモーション業務の実施状況というのがございまして、そこにニュースリリース・取材対応に当たった件数、記事の掲載、そして広報物配布件数、ホームページの更新回数などを記載しております。また、来館促進プロモーションの活動回数や配布数については0件となっております。
- 近藤会長 そういう話を何でしたかというところ、千葉県真ん中あたりに、長生のプラネタリウムがあるのですが、そこは公園の形式をとってしまして、実は家族でアスレチックをしたり、スポーツで試合をしたりするなど、そういう施設があるところにプラネタリウムがあるのです。千葉テレビでやっていたのを見て知ったのですけれども、プラネタリウムは千葉のきぼーるだけではなく、茂原市にもあるんだということと、そこではスポーツもできるし、科学的なこともできるしという、目的の全然違う施設が併合していて、今日はスポーツをしに家族で来たけれども、今度はプラネタリウムに行ってみようかということにもなるのかなと思ったのですけれども、千葉市の科学館の場合だと、科学の分野のみになってしまっているの、他の分野に取り組みたいと思ったときにまた科学館になるとなると、先ほどおっしゃっていたように、最初はいいけれども、だんだん来館者数は減ってきます。

先ほどお話した私の子どもたちが小学生のときにきぼーるが出来ました。そのときは、来館者を抽選するぐらいの人気があったんです。以前から入館者数が減っていて、いろいろ話をして管理者も変わっていくなかで、そういうところに関し

てのPRの仕方という、もう一つ踏み込んで何かしないと来館者数は増えていかないのかなと少子・高齢化時代ですので、高齢者に対しても何か働きかけないといけないのかな、と思いました。

- 岡村委員 このメンバー会員の普及推進の対策について、市の考えは分かりましたが、指定管理者はどのように考えているのですか。要するに40%程度しか達成していないでしょう。
- 潮見生涯学習部長 メンバー会員の限定講座について、こういうこともやっているというところをPRしているかもしれません。リピーター対策事業として、メンバー会の特典紹介や限定試写会または会報誌などのようなものを行っていますので、そういった特典があるということを頑張って周知していくことで確保していけばいいんだと考えているところです。
- 岡村委員 指定管理者がそう考えているのですか。
- 潮見生涯学習部長 はい。
- 岡村委員 平成30年度事業報告書の中に「イベント事業及びメンバー会の特典紹介や限定試写会の実施を図る」と記載していますが、これは図ったのですか。
- 潮見生涯学習部長 図っています。
- 岡村委員 「図っています」ですね、この年度で図ったのですか。
- 潮見生涯学習部長 図っています。
- 岡村委員 「「常設展示フリーパス」のサービスを秋より開始」となっていますが、開始したということですか。
- 潮見生涯学習部長 その通りです。
- 近藤会長 このままで開始しているということでもいいんですね。
- 潮見生涯学習部長 人数が少なく、合計で78人しかいませんけれども、開始しました。
- 岡村委員 その認識がどうかというのが大事だと思うんです。教育委員会のおっしゃることは分かります。それは確かにそうかもしれない。けれども、当然実施することにはなっていますが、そのために例えば利用者等から意見聴取するなどといったことが、やっぱり必要ですね。利用されている方がいろいろなことをおっしゃったと思いますが、意見聴取はしていますか。意欲という言い方は良くないですけども、そこだと思うんです。
- 中野委員 目的が入館者と利用者数の維持だと思います。
- 近藤会長 そうなんですね。
- 中野委員 入館者と利用者数の確保という点では、それ自体には問題がないので、もしかしたらあまり問題意識は持ってないかもしれないですね。
- 中野委員 指定管理者モニタリングレポートの基準に満たない項目の「改善の方向性」というところで、会員制度や周知方法について見直しを図っていくという抽象的なことしか記載していないので、やはり問題意識はないのかもしれないです。
- 八斗生涯学習振興課統括管理主事 その見直しを図っていくという内容が平成30年度事業報告書の「メンバー会員の登録人数」のところに具体的に記載してあ

ります。

- 中野委員　　そういうことですか。
- 八斗生涯学習振興課統括管理主事　　少してこ入れしようというつもりはあるようです。
- 宮野委員　　指定管理者モニタリングレポートの「その他の事業」の中で、ミュージアムショップの運営事業というのがありまして、このミュージアムショップ、私自身以前に行ったきりなので、今どういう状態か分からないのですが、どんなものを展開しているんでしょうか。
- 八斗生涯学習振興課統括管理主事　　恐竜の人形やあるいはちょっとした家でできる科学実験道具、あと、宇宙食などがあります。
- 宮野委員　　そういうものが置いてあるのですね。その前にロボットがいたんではないでしょうか。あのロボットというのは、いろいろなところへ持っていけないですよ。あれは、あそこでしか使えないですよ。
- 八斗生涯学習振興課統括管理主事　　今は、そのミュージアムショップにいます。
- 宮野委員　　一般的にいろいろな館のことの単純に宣伝するときは、そういうキャラクターをいろいろなところに持ち込んで、小学校のお話もありましたけれども、これからのAIとかいろいろな科学の象徴があるよということアピールする。ちらっと見せて来させるということもいいし、そういうものの商品化、ショップのところにある商品をもうちよっと思ってみてもいいかなと私は思いました。

千葉市の科学館というと、あそこはもう学術で科学の粋であって、それはとても必要なもので、それはなかったらだめだと思うんですよ。けれども、それだけではなくて、一般の人との触れ合う部分のその裾野のところの科学の分野をもっと外の生涯学習センターなどにいっぱい持っていったほうがいいんじゃないか。生涯学習センターでも体験できて、もっと科学の奥深さがあるんだよ、奥深いものは科学館に行ってみることだよ、とか、そういう層の厚さを少し作ってみてやったらいいのかなと思うのです。そのために、そのショップを使うというか、科学館だけにショップがあるのではなくて、もっとほかの生涯学習センターでも売るとか、見せるとか、そういうのがあってもいいのかなと思うのです。単にそういう平たい意味での商品広報、そういうのが足りないのかもしれないですね。学術、学術、学術と思っているかもしれないですね。科学館は学術でがっちりいいお城ができているかもしれないけれども、もっと崩した、小さな科学館的なもののコーナーが欲しいかなという、散りばめてみるのはどうかしらと思いました。

それから、平成30年度事業報告書の再来館の意思のアンケートで、私は「来たくない」という回答がどきっとするんですけども、来たくないというのが4人ほどいるんですね。この4人なんですけど、理由が分かるというなと思ったんです。この来たくないのは、なぜ来たくないのか。私は、1回行ったらいいなと思いますから。やっぱり時間がもっとあったほうがいいと思うから、もう一度来たいと思うのが普通じゃないかなと思うのだけれども、来たくないと言った人は何ゆえに来たくないと言ったんだろうか、それは大切じゃないかなと思います。何か人間関係で嫌になったのかもしれないけれども、その来たくないという言葉自

体がすごくどっきりするんですよ。この意思を聞く上でのアンケートの選択肢が、「是非来てみたい」、「機会があれば」、「どちらともいえない」ぐらいで終わっていると思うのですが、「来たくない」を選択肢に入れてもいいと思いますけれども、でも、それに呼応する人がいるんだなと思ったので、この理由をはっきりさせたいと思いました。

この会社は事業の全国展開をしていますよね。全国展開自体はいいんだろうと思いますし、千葉もその一つなんですけど、やっぱりローカル的に千葉を大切にしていかなきゃいけないと、私はこの会社には思うのです。だから、ローカルな千葉市での連携活動、例えば、ほかのところにも行って見て、うちの商品をここの辺へ置いたほうがいいのか、実感を込めて思ってもらって、そういう会社の姿勢もいいのかないかなと思いました。

科学館に行くと「あるもの」、「できるもの」、「わかること」はあっていいと思うけれども、館外の学習施設に出て行って、導入的な実験や、商品も売ってほしいなど、だから、もっと大学生を使ってみたらどうかと思いました。科学をいろいろ学習している大学生などは商品化とかそういうのが上手ではないでしょうか。その程度のものがほかに散らばっているといいかなと思いました。

○岡村委員 先程のメンバー会員の人数の話に戻りたいのですが、確かに中原先生がおっしゃるように、私どもも入館者数や利用者数が増えてとてもうれしいです。それは本当に力あるんだと思います。去年のノーベル賞もそうですが、いろいろなイベントをやって、入館者数や利用者数もすごく増えていますので、大変上手にやっていると思います。ただ、何回も何回も繰り返し来てくれる子どもというの、やっぱりあるのかなと私は思うのです。好きで何回も何回も行く科学館というのが、あると思うのです。例えば、九段下にある科学館に、私の娘は行こう行こうと言うのです。私の経験から言うと、そっちのターゲットもあるじゃないですかという気がするんですよ。だから、その科学の向上とは別ですけども、何かドラえもん来たから見ようという人もいますけれども、そういう子どもたちも中にいるんじゃないかと思うんですよ。

そうすると、中原委員がおっしゃたことも含めて会員を大事にするというか、特別な何かを考えるとかということも、それは科学館の目的を達成する重要な要素じゃないかなという気がするんですよ。ですので、その辺りを、ぜひ教育委員会の方に考えていただきたいです。入館者数や利用者数の人数が増えたからといって、本当にそれでいいのかと思います。

本当に40%程度でいいですか。

○潮見生涯学習部長 いえ、これでいいとは思っておりません。

○岡村委員 努力してもらえますよね。

○潮見生涯学習部長 ええ。しかしながら、結局、来た方に1日の料金ではなく、さらに年間の料金を払っていただくというのは、なかなか難しいですね。

○岡村委員 年間の料金はどのくらいですか。

○潮見生涯学習部長 個人会費では大人が3,000円。通常ですと1日利用するのであって、今はつまりその来た方に「お得ですよ」と伝えたとしても、その時

点ではたくさん払わないといけないということになります。何回も来ると予め分かっていたら、「そっちの方がお得ですよ」という話が出るんですけども、そういう意味で、ちょっと今難しい面はあるんですね。

- 中野委員 やっぱりその金額と、あとはメンバー会員になったことによるメリットがまだ少しバランスが悪いのか、メンバー会員になったほうがいいんだということが伝わっていないのか、原因がどっちにあるか分からないですけども、そこを少し検討していただけたらいいと思います。
- 潮見生涯学習部長 その年会費を抑え過ぎますと、今度は収入面でマイナスが出てしまいますので。
- 中野委員 メンバー会員になっていると、来館したときの費用というのは通常の700円とどのぐらい変わるんですか。
- 潮見生涯学習部長 無料です。
- 中野委員 無料になるんですね。では5回行ったら元が取れるんですね。
- 潮見生涯学習部長 来たときにお勧めして、なかなかそこにつながらないというのが事実としてあるんですね。そういう難しさもありますが、確保するためには、やはりそこは頑張っていけないといけないので、目標はなかなか達成しないんですけども、現場でも周知やいろいろそのメリットを引き続き工夫しています。
- 近藤会長 ディズニーランドやディズニーシーの年間パスポートを持っている人は、入館できない日や入園できない日などの連絡がいろいろ行ったりするんですけども、そのいろいろな情報は全部パソコンに来るようになっていて、この日は行けないとか、その会員の方にこんなお得なものがあるというようなことをメールで発信するようなことというのはないですか。
- 潮見生涯学習部長 今は会報ですね。
- 近藤会長 会報のみですか。
- 潮見生涯学習部長 年に4回発行しています。
- 中野委員 確かにメールとかLINEとか見ている人は多いですよ。
- 近藤会長 今はそういうのを利用されている方が多いですよ。
- 潮見生涯学習部長 その辺りを提案してみます。
- 近藤会長 ですので、何月からはどんなことをやるというようなことが、もう常に常に毎月1回でも行くような形をとると、ああ、会員になるとこんな情報がもらえるのかと感じてもらえると思うのです。その会報で年4回というのは、何か少ないような気もするんですね。それで、つい先日、宇宙の石をとったとか、そういったものに関しての情報をそういうLINEやSNSを使って発信していけば、会員になって良かったと感じてもらえると思うのです。
設定はどちらかだと思ふ。値段は高くても、すごく楽しいことがたくさんあるとか、ある程度の値段でも、行くことによってメリットがあるとか、またはいろいろな情報が来たりとかということ、付加価値というか、そういったものがあれば会員になりたいなという気持ちが人間としては湧くのではないかなと思うのです。
- 宮野委員 そうですね。人から人へのコミュニケーションを大切にしたいビジョン

の中に書いてある。人と思ったときに、館長さんがもっと前へ出て実験をやるのかですね、そういうのがいいかなと思いますね。館長さんは実験できますよね。いいんじゃないかなと思います。やっぱり中にいる人が出てこない、それを行っている人が出てきて顔を出すというのが、やはりもし人から人へのコミュニケーションという場合には、一つの方法かもしれないとも思いました。

- 岡村委員 会員特典みたいなのは、教育委員会の方で考えられることなんですか。
- 潮見生涯学習部長 いいえ、それは指定管理者になります。
- 岡村委員 そうですか。
- 近藤会長 こういういろいろなところで、そういうことをやっていらっしゃるんだったら、もっとそういったいろいろな情報とかがあるのではないかなと思うので、何かいい方法にさせていただけるといいかなと思います。
- 岡村委員 「これでいい」という感覚は持たないでいただきたいです。市の方もそうですね。
- 近藤会長 そのほか何かありますか。
- 岡村委員 確認よろしいですか。

指定管理者年度評価シートの支出のところ、その他事業で、先ほど900万円減りましたという話がありましたね。それはなぜ減ったのですか。

- 潮見生涯学習部長 ミュージアムショップの売上げとバーターで、上がらなかったものです。
- 岡村委員 そういうことなんですか。
- 潮見生涯学習部長 はい。
- 岡村委員 何か、この什器備品というのは、何をかう予定だったのですか。要するに何を伺いたいかという、やると言ったことをちゃんとやっているか伺っているのです。
- 潮見生涯学習部長 これは、什器備品購入費という費目です。
- 岡村委員 違うんですか。
- 潮見生涯学習部長 ミュージアムショップの在庫とか……
- 岡村委員 在庫から売りということ。
- 潮見生涯学習部長 ええ。
- 岡村委員 わかりました。備品購入はそういうものですか。

また、幾つか質問させていただきます。

- 近藤会長 どうぞ。
- 岡村委員 評価シート補足資料について教えてほしいんですけども、施設管理能力の（１）人的組織体制の充実の（１）管理運営の執行体制で管理運営の執行体制が「×」になっていて、これが－２点ですね。次に必要な専門職員の配置が「◎」ですね。従業員の能力向上が「◎」になりましたね。これを全部足すと２になんてですね。
- 潮見生涯学習部長 ２ですね。
- 岡村委員 このマイナス、ちょっとさっきも気になってはいるんですけども、（２）の必要な専門職員の配置のどこから出ているかという……

- 潮見生涯学習部長 博物館学芸員24人分。
- 岡村委員 やっぱりそうですね。
- 近藤会長 はい。
- 岡村委員 計画した人数よりも多いという話なんですね。
- 潮見生涯学習部長 指定管理者モニタリングレポートの優れた管理運営を行っている項目に記載してあります。
- 近藤会長 一番最後のところですね。
- 潮見生涯学習部長 提案書では5人だったところを、今24人配置しています。
- 岡村委員 少し確認したいのですけれども、5人というのは、これは常勤ですか。
- 潮見生涯学習部長 常勤です。
- 岡村委員 今24人常勤いるんですか。
- 潮見生涯学習部長 はい、そうです。
- 岡村委員 そんなにいるんですか。コストはどうしているんですか。本当ですか、それ。1人当たり人件費幾らですか。
- 中野委員 専門職だということで、どのくらい金額が上がるかというところになると思うのですけれども。
- 岡村委員 全く新たに雇ったということではなくて……
- 潮見生涯学習部長 56人のうち24人がその学芸職ということですか。
- 岡村委員 学芸員の資格を持つ。それは意図的かというと、資格を取らせるとか何かいろいろしたということですか。
- 潮見生涯学習部長 おそらく持っている方を採用しているのではないかと思います。
- 岡村委員 もともとが。
- 潮見生涯学習部長 そのことで56人を満たすのは、なかなか難しいというような……
- 岡村委員 今5人とおっしゃいましたよね。
- 潮見生涯学習部長 はい。
- 岡村委員 その5人というのは何でしたっけ。
- 潮見生涯学習部長 提案書における専門職員の人数です。
- 岡村委員 提案で5人にしますよということだった。
- 中野委員 56人のうち5人が専門職。
- 岡村委員 それが24人になった。本当は56人ということなんですか。
- 近藤会長 いえ、専門職員を含めた全職員数を56人にするということですか。
- 岡村委員 それが職員数は54人だったということですかね。例えば退職者ということですかね。
- 潮見生涯学習部長 それは企画運営できるような職員を多く雇っているということですか。単なる管理できるということだけでなく。
- 岡村委員 そのこと自体は、これは褒められることだということなんですね。
- 潮見生涯学習部長 それで「◎」にしました。
- 岡村委員 すごいんですね。それで3つの項目を足せば、いい結果だということ

ですね。

- 近藤会長 はい。
- 岡村委員 だから上がりましたよと。分かりました。
- 近藤会長 そのほかは何か大丈夫でしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 近藤会長 もう一個だけよろしいでしょうか。科学館おもしろ教室、出前授業と
いうのをしていると思うのだけれども、この内容で参加人数にすごく開きがある
ので、1回的人数が4人とか6人だったりとか、あとは内容によっては1回でも
100人近いものがあったりとかというので、この内容というのは、その学校毎
の要望に合わせた形で出前授業をしているんですか。
- 八斗生涯学習振興課統括管理主事 それは各学校からの要望に応じて行っていま
す。人数は、その学年、学校の参加……
- 近藤会長 参加人数ですね。
- 八斗生涯学習振興課統括管理主事 はい。
- 近藤会長 せっかく行くのに、4人とか6人でやるというのは、何かもったいな
いと思うんですね、せっかく行ってやってくれているというところで。これを見
たときに、余りにも1回的人数に開きがあり過ぎて、これはこのままの状態でい
いものかと思ったんです。
- 八斗生涯学習振興課統括管理主事 全員対象にしているときや、子どもの中でも
分かれて授業を行っていたり、自分もこれに対応しているというような、もった
いなきと思ったんですね。
- 近藤会長 もったいなきというか、せっかく人がそこに出向いてやっていること
なのに、2人とか3人とかのためにやるというのは思うところがあったので、1
回やっている段階で2回とか3回とかという書き方をしているところで、延べ人
数で載せているんだと思うんですけれども、せっかく載せるのであれば、1回ず
つ的人数に統一して載せないと、比較にならない。2回、3回で延べ人数で載せ
ているところと、1回で何人と載せているところ、それはだって1回全部、1回
で何人だったとかという形で載せないと、資料としては、分かりづらいのではな
いですか。
- 潮見生涯学習部長 1日3回やっている。それが例えば2つとか、こんな課題で
やっているというというようなことを……
- 近藤会長 そうですね。
- 中野委員 学校の規模や需要に応じてやっているということなんでしょうね。
- 近藤会長 そうですね、ただ、私の地元の小学校がそこに入っていたんですけれ
ども、そこが6人だったんですよ。人数も学校の中としては少しずつ子どもたち
が増えてきていて伸びてきている学校なんで、反対に人数が減りつつあるのだっ
たら6人でもいいとは思いますが、そこは少し人数が増えてきているのに
6人というのはちょっと悲しいと思ったんですけれども、これは学校のほうが来
てくださいとお願いしているものなのですか。
- 八斗生涯学習振興課統括管理主事 応募している……

- 近藤会長 応募ですよね。分かりました。
- 近藤会長 私の方でもちょっと学校に聞いてみます。何かそういう少ないところもあるじゃないですか。
- 潮見生涯学習部長 少ないところはあります。
- 近藤会長 その辺が、せっかく派遣してやっているのに……
- 潮見生涯学習部長 確認したいと思います。
- 近藤会長 科学に興味を持ってもらえるようなものにしていただくと、さっき言っていた科学館のほうにと上向きに上がってくるのかなと思います。特に出前の授業をしていただいているので、もっと大切にいただけたらうれしいかなと思います。行ってみたら、参加人数が2人だったとかということもあるのでしょうか。それとも、参加人数は何人以上でとかという何か条件みたいなものがあるのでしょうか。
- 宮野委員 それは未知数でしょう。テーマにもよると思います。
- 近藤会長 そうなんですね。
- 宮野委員 これテーマが見えていないので、何だったかとか分からない。
- 近藤会長 そうなんです。その、ただ授業で行きましたということしか分かっていないので、もっと資料として出していただくのだったら、どんな内容のものでこれだけだったよと、子どもたちにこんなところの授業の人気があるといったら、もっとそれを打ち出して行って、それを全面に出していくのがいいと思います。
- 中野委員 いろいろな内容の授業をやるんですか。
- 潮見生涯学習部長 そうなんですよ。
- 中野委員 いろいろな内容をやっているんですね。
- 近藤会長 せっかく何かいいことをしているのに、ちょっとこの開きは何だかもったいないなという気がしたところがあるので、これをこれでよしとして、資料として載せているとしたら、正直私は疑問があるのですが。
- 中野委員 無償で行っているんですか、学校から料金が支払われているというようなことではなくて……
- 八斗生涯学習振興課統括管理主事 無償となっています。
- 中野委員 コストがかかって、その分2人とかだったら確かにもったいない。
- 近藤会長 もったいないですよ。そういうことを感じたので、意見を述べさせていただきました。

ほかには大丈夫でしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 近藤会長 それでは、ただいま委員からありました意見などを、先ほどと同様に答申案として事務局にまとめていただきたいと思います。
- それでは、次に、千葉市公民館に関して事務局から説明をお願いします。
- 潮見生涯学習部長 千葉市公民館の評価につきましてご説明させていただきます。まず、指定管理者年度評価シートをご覧ください。

1「公の施設の基本情報」です。成果指標としては主催講座の増加数、そして数値目標は平成28年度の主催講座数763講座から300講座以上を最終年度ま

でに増やすというもの、2つ目として、公民館の施設稼働率を最終年度に52%以上にするという2つを設定しております。

次に、2「指定管理者の基本情報」は、公益財団法人千葉市教育振興財団で、指定期間は平成30年4月1日から令和5年3月31日までの5年間となっております。選定方法は非公募で、その理由につきましては記載のとおりであります。

3「管理運営の成果・実績」の1、(1)成果指標に係る数値目標の達成状況ですが、1つ目の主催講座の増加数は、972講座実施し、300講座増加の目標に対しては209講座増加しております。

それから、2つ目の公民館の施設稼働率は、目標の52.0%以上に対し、45.8%となっております。

4「収支状況」です。(1)の必須業務収支状況についてですが、収入は、合計欄の実績12億9,004万7,000円、計画比では8万7,000円の増となっております。支出は、合計の実績欄12億6,204万4,000円で、計画比では2,791万6,000円の減となっております。主な要因は、若年層の増加に伴う人件費の減によるものです。

(2)の自主事業収支状況についてですが、支出のみの11万4,000円となっております。朝市やパネル展等で使用した消耗品、会場使用料などの事務費です。

続きまして、(3)の収支状況はご覧のとおりで、収支は2,788万9,000円の黒字となっております。

次に、5「管理運営状況の評価」の(1)管理運営による成果・実績につきましては、先ほどご説明しました成果指標の目標達成状況で、いずれもCでございます。

(2)の市の施設管理経費縮減への寄与でございますが、指定管理料支出が選定時の提案額から2.2%の削減でしたので、評価はCとなっております。

次に、(3)の管理運営の履行状況ですが、指定管理者モニタリングレポートをご覧ください。

この施設につきましては、プラス評価はありません。

基準に満たない項目についてですが、利用者の意見聴取・自己モニタリング、利用者意見の聴取のところで、公民館の利用者で構成される運営懇談会を年2回以上開催するという提案に対しまして、28館は2回実施したものの、残る19館では1回の開催にとどまっております。令和元年度においては提案どおり2回以上実施するというようにしております。

優れた管理を行っている項目として修繕では、壁紙修繕16件など、市の直営時代にはなかなか対応し切れなかった施設の状況に伴う修繕を積極的に実施したことにより、利用者からも設備がよくなったという意見を多くいただくなど、利用環境の改善に寄与しております。利用者の支援では、無線LANを全館に設置し、利用者の利便性を向上させるとともに、災害時の情報収集や通信手段として活用できるようになりました。利用促進の方策では、黒砂公民館においてツイッターを活用した講座情報の提供、宮崎公民館においてフェイスブックを活用した講座情報の提供、また全館に渡るものですが、公民館の情報紙というものを2月から

隔月で発行しており、広報活動を強化しております。

指定管理者年度評価シートの補足資料ですが、ただいまの○、×を転記していきまして、評価としてはC評価が妥当であるということになります。

指定管理者年度評価シートにお戻りいただきまして、先ほどご説明したような結果が掲載されております。

(4) 千葉市教育委員会指定管理者選定委員会意見を踏まえた対応は、こちらは今年度が初めてのことでございますので、記載はございません。

6「利用者ニーズ・満足度等の把握」についてですが、第2の「職員の対応について」は、「満足」と「やや満足」の合計が91%、第3の「部屋や備品等の状況について」は、「満足」と「やや満足」の合計が73%となっております。また、第4「4月の指定管理開始以降の公民館についてどのように感じているか」ということにつきましては、「全体としてよくなった」または「ややよくなった」が28%、一方、「全体として悪くなった」または「やや悪くなった」が1%であり、指定管理者による管理にスムーズに移行できたものと評価しております。

次に、(2)市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応についてですが、利用者との長時間のおしゃべりや職員による休憩時間における「災害時以外の事務室内でのテレビ視聴」という意見に対しては、事実確認の上、指導いたしております。また、アンケートでは挨拶・コミュニケーション等について不快・不満があるなどの意見がございましたので、真摯に受けとめまして、公民館全体の問題として改善に努めております。

最後に、7の「総括」ですが、(1)指定管理者による自己評価については、地域ニーズに対応した事業の実施、子どもの居場所としての支援、地域との連携や市民の学習活動に寄り添った地域主体の施設としての役割を果たしていることを評価し、Cとなっております。

一方、(2)市による評価は、評価の目安に基づきましてCとなっております。

所見といたしましては、5年間で300講座増加という目標に対し、1年間で200講座以上増加を図ったこと、中央図書館との連携により図書資料の充実を図っていた、その他、修繕への的確な対応やタイムリーな備品の購入などが認められております。

説明は以上です。よろしくお願いたします。

- 近藤会長　　まず、指定管理者の財務状況についてご意見を伺うところですが、指定管理者である公益財団法人千葉市教育振興財団につきましては、先ほど意見をまとめていただいておりますので割愛をさせていただきます。

それでは、先ほどの事務局からの説明内容への質問や、指定管理者の施設管理運営のサービス水準向上、業務効率化の方策、改善を要求する点などについて、ご意見をお聞きしたいと思います。ここで委員の皆様からご意見をいただく前に、公民館の評価に関しまして中原委員からのご意見をいただいておりますので、事務局のほうからご報告をお願いいたします。

- 渡邊総務課課長補佐　　公民館の評価について中原委員からお預かりしているご意見は次のとおりでございます。

「1点目として、指定管理者年度評価シートの施設の老朽状況から稼働率が約46%というのはいたし方ない面もありますが、達成率88%では実質的にはD評価に近く、何らかの具体的な対応策が求められますという意見が1点。

2点目としては、同じく6「利用者ニーズ・満足度等の把握」において、職員の対応で3.7点の評価は得られているとはいえ、利用者との長時間のおしゃべりや、特に禁煙が常識となっている現状で、公共機関の公民館職員の喫煙は厳に慎むべき事項であり、こうした意見一つとっても3.7点の評価には疑問が残ります」という2点の意見をお預かりしております。

以上でございます。

○近藤会長　ただいまの中原委員のご意見に対して、事務局から何かございますか。

○潮見生涯学習部長　利用、稼働率ですね、これはサークルがだんだん高齢化によって減り、なかなか上がらないという状況があります。そこで、今年度から条例を改正しまして、これまでに入れていなかった、いわゆる政治的な利用であるとか、あるいはこれまでサークル、団体の利用に限っていたのですが、空いている場合に、直近で空いていれば個人でも利用可能にするとか、そういった改善を今行っているところです。

それから、おしゃべりの問題ですが、出来るだけその地域の方々との関係性を重視する余り、利用者とおしゃべりをしてしたりということがあったということです。この辺りにつきましては、地域拠点としての役割を果たすという目的もありますが、やはり他の利用者の不快にならないような改善をするように、全公民館に対して周知徹底をしているところです。

それから、喫煙、受動喫煙対策につきましては、この施設そのものは除外施設なんです。したがって、すぐに禁煙ということには出来ないのですが、やはり利用者が不快にならないような喫煙場所であるとか、将来的にはやはりこれは禁煙の流れになると思いますので、段階的に改善したいと考えています。

以上です。

○近藤会長　それでは、委員の皆様、公民館の評価に関して何かご質問、ご意見はございますか。

○中野委員　今の喫煙の話ですけれども、向かいの店舗前にある灰皿で喫煙なんです。休憩中とかの時間で出てくるのですよね。何かちょっとかわいそうな気がしますね、私自身はたばこを吸わないので、その辺りはよく分からないのですが。世間の流れから、このような意見が出るのですかね。

○近藤会長　出ますよね、確かに。

○宮野委員　地域のニーズにという、ニーズにという言葉が何回か出てきますけれども、この地域のニーズ、住民がどんなことを考えているだろうとか、この地域はどんなことを公民館にあるといいなと思っているだろうかというのは、アンケートで分かりますか。

○潮見生涯学習部長　そもそも公民館というのが、千葉市の場合、中学校区に1館を基本に設置しておりますので、公民館はいわゆる公民ですね、地域課題にみずから学習して、課題解決をしようとする市民の場ですから、その公民館毎に地域の

課題が違っていると、そこを踏まえてその地域のニーズという言い方をしているわけで、単に地域の方たちがここでやりたいからこうだという、それと少し違う。もちろんそういう面もないわけではないのですけれども。

- 宮野委員　そうですね、それを相互に分かり合うというか、そういうのがあるといいのかなと、この資料からは、その部分が読めなかったかもしれないのですね。ですから、運営懇談会がもっと活性化していくというのを期待されるなと思いました。

それから、この公民館は、生涯学習センターとかありますけれども、最も地域に根差しているところであって、そういうことから考えてみると、地域の人材バンクのようなものが、そこへ生涯学習センターが聞けばわかるとか、何かそういう仕組みというのは、もう既にありますでしょうか。

- 中島生涯学習振興課長　人材バンクというほどのものではございませんけれども、ボランティアや行政の事業をやっているなど、生涯学習センターと各公民館での付き合い方、もしくはクラブ、サークルでご活躍されている方とのやりとりを通じながら人材を見つけていきたいというふうには考えております。

- 宮野委員　そういうのがあるといいなと思いました。

- 上原生涯学習振興課主任主事　生涯学習センターはボランティアの登録はしております。

- 潮見生涯学習部長　人材登録のような形で。生涯学習センターがそのボランティアセンターを、教育のボランティアセンターをやっていますので、そこから各公民館に派遣をするとかということも可能です。

- 宮野委員　なるほど。公民館と生涯学習センターとでも、ここはもうちゃんとわかり合っているというのが市としてはいいですね、体制として。

- 潮見生涯学習部長　その効果があって、ここを同じ指定管理者にしました。

- 宮野委員　そうですね、それがもっともって生きていって、いろいろな活動にそれが利用できるよくなるといういいなと思います。

それから、古い公民館も多いです。これからどんどんお金が必要になってくるのかなと思って、その辺の支出の計画とか、そういうのはあるのですか。

- 潮見生涯学習部長　市の資産経営の考え方というのは、もう基本的に人口減少のことを見据えて施設の面積は増やさないようにしようということですか、できるだけ合築できるものは合築していこうという考え方があります。

一方で、市の教育委員会の考え方としても、学校の老朽化という問題がありますから、今後、その学校を建て替えるというような場面では、そういうほかの施設を合築していこうというような考え方がありますので、長い将来、本当にずっと先でしょうけれども、その公民館と学校に対してですとか、そういったことを真剣に考えていかなければいけないなと考えています。もちろん老朽化の対策として延命化はするのですけれども。

- 宮野委員　私は、学校との合築といいますか、それをすごくいいなと思いますね。児童、放課後の児童のことであるとか、考え方ですね。東京にもそういうのが幾つかありますね、いいですね。

それから、あとリスク管理ですが、防火管理についてかなり、47のうちの3分の1ぐらいの公民館に検討が必要だということなので、これは今やっていただいているようですけども、リスク管理はやっぱり全て適であるべきという感じがいたしました。公民館はやっぱり地域の本当に町医者的な、そういう親切さとかきめ細やかさとか、そういうのが必要だと思うので、かといって、なあなあにならないように、テレビを見ていないようにというのが、そういうことに注意をいただきながら、地域の生涯学習センターも大切ですけども、どちらかというとやはりこの公民館の大切さというか、もう一度見直した形でその地域の住民の方に愛される公民館みたいなのでやっていけたらいいなと思いました。

- 岡村委員 数字について教えてほしいのですけれども、指定管理者年度評価シートですね、先ほど若年層の採用というお話がございました。それに関連するのですけれども、まず、この人件費の約9,000万円、計画よりも減少ですよ。これは、計画はどうだったという、聞き方がおかしいかもしれませんが、要するに比較する対象としての確な計画ではなかったということですか。
- 中島生涯学習振興課長 指定管理者になりまして、もともと市が直営でございましたので、市の職員が公民館の職員として働いておりましたけれども、その職員が引き上げ、指定管理者になりますので引き上げるかわりに、新たに熱意を持ちました人材を、指定管理者が積極的に採用させていただいております。そうしたことで、職員全体として、若返りが図られまして、給与水準がその市の職員がいた頃に比べ、下がったということが原因としては考えられるかと思えます。
- 岡村委員 この計画というのは、それを見込んだ計画だったのではないのですか、違うのですか。
- 潮見生涯学習部長 そうなのですけども……
- 岡村委員 そうですね。
- 潮見生涯学習部長 ある程度これくらい下がるだろうという見込みはしてあったと思うのですけれども、採用したところ、かなり新卒の若い方々が大勢手を挙げて入ってきて、現場が非常に若返って意欲のある方が、しかも将来にわたってずっと公民館でやるということで、さらに計画より下がったということです。
- 岡村委員 それでちゃんと回りますか。
- 潮見生涯学習部長 回っています。
- 岡村委員 やっぱり人材育成も必要ですし、きちんとした仕事をしてもらわないと困るのですけれども。
- 潮見生涯学習部長 1つには、各公民館の館長というのは、校長先生だった方が多いので、そういう方がしっかり座って、可能な限り経験のある方がいるようにしていますから、そういったことで若い職員も十分そこで人にも恵まれながら企画を見つけるものと見込んでおります。
- 岡村委員 実際の仕事上でも変な問題を出すこともないだろう。それでは、ある程度上手くいったと判断しますね。

次に、講師謝金の減、これも10%ぐらい減っているというのですよね。これは回数を減らしたということですか。

- 中島生涯学習振興課長　　いいえ、回数を減らしたというよりは、工夫を重ねたということで、公民館を使っているクラブサークルの方ですとか、地域の団体の方ですとか、企業のCSRのような社会貢献みたいなものがございまして、そういうご協力もいただきながら、講師謝礼が安価であったりだとか無償であったりだとか、そういう講師の先生をお迎えして講座をつくったということで、金額的に抑えられたということで、当初予定していたよりは講師謝金が減少したようございまして。
- 岡村委員　　やることをきちんとやっていますか。講師としたら、不満に思っているわけではないということですね。
- それでは、その次の管理費7,000万円増加していますが、これは何ですか。
- 中島生涯学習振興課長　　こちらですけれども、先ほど説明もさせていただきましたけれども、公民館が老朽化しておりますので、その老朽化に対応した修繕費を増加させていただいたものでございまして。例えば、経年劣化いたしました備品ですね、机がちょっと重かったりですとか古かったりですとかしますもので、新しく軽いものに変えたりですとか、あとは壁紙がめくれ上がっていたりして、見た目にもよくなかったので壁紙の張り替えとか畳の表替えですとか、そういうものもやりましたし、床の修繕ですとか、自動ドアの修繕ですとか、環境的な整備を進めさせていただきました。
- 岡村委員　　要するに、やってもらって結構なのですが、計画となぜ違うかというところなのですね。計画が甘かったのではないかとっているのです。違いますか。
- 潮見生涯学習部長　　実は、こちら辺が指定管理者だからできたということなのですけれども、市ですと人件費を流用して修繕へ回すわけにはいきませんが、現実には現場をより環境をよくするために、指定管理者の判断で、もちろん相談はこちらに来てはいますけれども、その人件費の浮いた分を他の経費に回して、修繕がたくさんできて、利用者に喜んでいただけたという、そういう流れです。
- 岡村委員　　そういうことというのは、初めから分からないものですかね。私たちが計画しながらやっているわけで、計画しますからね、こうやりましたと。分からないものですかね。
- 潮見生涯学習部長　　実はこれでもまだまだ古くて、直っていないところが……
- 岡村委員　　たくさんあるでしょう、それはね。
- 潮見生涯学習部長　　あるのですが……
- 岡村委員　　多分、修繕の見込みが少なかったわけですよ。本当はもっとやらなくてはいけないのではないですか。違いますか。
- 潮見生涯学習部長　　いえいえ、もし人件費が計画ぐらいかかってしまったら、そんなには出来ません。余ったからやるわけですよ。
- 岡村委員　　来年度以降はこの修繕というのは普通どおりとなるか、でも、人件費が減りますから、その分修繕費に回せるということですね。そしたら、どんどん修理できるということですね。
- 潮見生涯学習部長　　計画を直してもらったら。
- 岡村委員　　計画を直してからやってもらえばいいのですよ。本来は、よく頑張っ

てやっているということですね。

- 潮見生涯学習部長　この決算を踏まえて、来年度の計画は直してくると思うのですけれども。
- 岡村委員　モニタリングしていただけますね。驚いてしまうわけですよ。
- 近藤会長　平成30年度年次事業報告に、ずっと異常箇所では修繕しましたと載っているのですけれども、これを私見たときに、これはすごいなと思ったのですけれども。
- 岡村委員　今までやっていなかったのですね。
- 近藤会長　そうですね。だから、結局市がやっていたときには、ここまでできなかったということもあったと思うのです。私なんか地元で公民館を利用することがあって、いや、やっぱり古くて、何かこのままいつ潰れてしまうのだろうなと思っちゃうところもあったりするのと、あと、要するに緊急避難場所になっている公民館がいっぱいありますよね。それを考えると、こんなに老朽化していて、ここに避難してきて大丈夫かなというところもあるので、この数字を見て、「ああ、計画よりもいっぱい修繕してくれたんだ」というので、私としてはよかったなと思った部分だったのですけれども、ただ、何で急にこんなに多く修繕して、採算がとれたのかというのが疑問だったのですが、先ほどの人件費を回して対応したということだったら、もともとはもっとやらなくてはいけないところを、ここまでやったというのは、すごいなと私は思ったのです。
- 宮野委員　そうですね、計画があるのかなと思ったのですが、何年度はこの地区、何年度はこの地区とかやっておけば、まあまあある程度の額面はこれだけはいくのだなと。人件費とって、今は若いけれども、だんだん年いくわけで、そう思い心配しました。
- 岡村委員　そうですか、それでは、いい例だったのですね。来年度以降、これだけ計画と違ったのですから、余り数字に固執しないからといって、10%以上人件費下がったからと、こんなことが出てくれば、計画はありませんということになりますので、今の修繕計画もそうですね、現実に近い目標値で設定をお願いします。
- 中野委員　修正されるのですよね、この事業年度毎に計画を見直しして。
- 潮見生涯学習部長　そうですね。
- 近藤会長　今年は初めてなので、こういう数字ですが、何とかできないかなと思ったのですけれども、私個人としては、老朽化した公民館をたくさん知っていたので、ああ、こんなに修繕があるって目が点になるぐらいだったので、でも、すごくたくさん修繕してくれているのだというのは、驚いたところがありました。
- 近藤会長　ここに結構トイレの排水とか、トイレに関するものがあるのですけれども、古い公民館とかだと洋式とかになっていたりするのですか。
- 潮見生涯学習部長　そこは、これは言ってみれば、財団ができる修繕の範囲で、洋式化とかは要望も多いので、これはもう市として取り組んでいるところです。しかも数が多いのですね。順番にやるとずっと待たなければいけないということもありますので、まず各公民館の3つあるうちの1つとか、そういう形で順次今

進めているところです。かなり率としては洋式化率も上がってきたのです。

○中島生涯学習振興課長　これで、今、平成30年度末ですけれども、70%ぐらいの洋式化率になっていますが、計画的に進めさせていただきたいと思っております。

○近藤会長　ほかにご意見などのある委員はいますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○近藤会長　では、意見などが出尽くしたところですので、それでは、また委員からありました意見などを、先ほどと同様に答申案に事務局にまとめていただきたいと思います。

私からの提案ですけれども、今回の審議に基づく答申について、事務局がまとめた答申案を今回の会議の議事録案とあわせてお送りし、委員の皆様から個別にご意見をお聞きした上で、私が承認して本委員会の答申として決定するというようにしてはいかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○近藤会長　それでは、事務局がまとめた答申案については、委員の皆様から個別にご意見をお聞きした上で、私が承認して本委員会の答申として決定することといたします。

それでは、その他ですが、ここで、今回の指定管理者の施設管理に係る年度評価に対する総評として、中原委員からご意見をいただいておりますので、事務局よりご報告をお願いいたします。

○渡邊総務課課長補佐　中原委員から、各施設の年度評価に対する総評についてお預かりしているご意見を紹介します。

「1点目として、今回の評価では、全体的に決してマイナスの評価ではないが、例年に比べてC評価が多い気がする。見た目の問題で、C評価ではA評価、B評価よりも劣り、大した評価ではない気がしてしまいます。また、各施設で無難なC評価よりも、少なくともどこか1つの項目でも顕著な実績のA評価がなされるようプラス面もアピールする姿勢が必要な気がする。

2点目として、上記と関連しますが、総括評価の目安として、C評価のDが20%以下という目安は、A・Bの評価目安と開きがあり、せめてCが80%以上とやや厳し目にすべきではないでしょうか。

3点目として、収入・支出の各項目で、実績、計画、提案の数値が示され、確かにそれらは見積もりや計画としての意義は認められます。しかも実績との差額の事由も付され、説得ある数値となっています。しかしながら深読みすると、収入では提案や計画を低目に抑え、逆に支出では高目に設定しておく、数字の上で実績が必然的にそれぞれよくなるということが懸念されます。とはいえ、妙案はありません」という3点のご意見をお預かりしております。

以上でございます。

○近藤会長　委員の皆さん、ただいまの中原委員の意見に対して何かございますか。

○岡村委員　特に3点目です。

○近藤会長　さっきの数字のことですね。

- 岡村委員 当初の計画がきちんとしたものかというチェックをしないと、評価を誤りますから、私自身も肝に銘じる部分も思います。B評価、C評価というのも、中原委員のおっしゃるとおりですね。
- 近藤会長 そうですね。
- 岡村委員 5段階の評価ですからね、なかなか。
- 潮見生涯学習部長 市の提示したとおりにやってCですので、よほど頑張らないと、Bや、ましてはAというのはなかなか、Cで十分だという、まずはそのラインを下げつつですね。
- 近藤会長 Cの中でも、Cプラスとか、そのような評価の仕方とか、ちょっと分かれるようなところがあれば、まだね。
- 宮野委員 そうですね。
- 近藤会長 なんとか、もっと良くなるかもしれないですけども。
- 潮見生涯学習部長 所見のところちょっと加えて差別化を図りたいと思います。
- 近藤会長 ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 近藤会長 では、ほかに意見がないようなので、では、指定管理のところでのほかの意見がないようですので、事務局から何かありますでしょうか。
- 渡邊総務課課長補佐 指定管理者制度の評価の基準について、いただいたご意見ご指摘については、評価制度自体が市全体の制度に共通する部分もございますので、制度を所管しております総務局のほうに基準の考え方について照会しておりまして、その回答をいただいてから、改めて皆様のほうに次年度以降の基準のあり方についてご相談させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。
- 近藤会長 そのほか何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 近藤会長 皆様のご協力によりまして、本日の議事は全て終了しました。ありがとうございました。
それでは、事務局にお返しいたします。
- 金井総務課主査 長時間にわたるご審議、本当にありがとうございました。
以上をもちまして、令和元年度第1回千葉市教育委員会指定管理者選定評価委員会を閉会いたします。
委員の皆様、本日はお忙しい中、まことにありがとうございました。

問合せ先 千葉市教育委員会事務局教育総務部総務課

TEL 043(245)5903

FAX 043(245)5990